

エホバの証人の奉仕報告の統計に見る今後の展望

1981-2010 バプテスマ&伝道者集計
 -各年の「エホバの証人の年鑑に基づく-

* 伝道者数は平均値なので、一時的な状況ではなく、現実数と見るべき
 世界人口の死亡率は0.878%とされています（米国勢調査局、国連統計データ）

2247486	+	7857917	=	10105403	-	7224930	=	2880473	-	2535	=	2877938
1981年 伝道者数		1982-2010 バプテスマ合計		伝道者 見込み合計		2010年 実際の伝道者数		死亡率 0.88%				伝道を 止めた人

	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
バプテスマ	119836	138540	161896	179421	189806	225868	230843	239268	263855	301518
前年からの増加										
平均伝道者数	2247486	2342634	2501722	2680274	2865183	3063289	3237751	3430926	3624773	3846311
前年からの増加										
バプテスマ累計+		2386026	2547922	2727343	2917149	3143017	3373860	3613128	3876983	4178501
減少数		43392	2808	869	4897	27762	56381	46093	70008	79980

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
	300945	301002	296004	314818	338491	366579	375923	316092	323439	288907	263431	265469
	-573	57	-4998	18814	23673	28088	9344	-59831	7347	-34532	-25476	2038
	4071954	4289737	4483900	4695111	4950344	5167258	5353078	5544059	5653987	5783003	5881776	6048600
	225643	217783	194163	211211	255233	216914	185820	190981	109928	129016	98773	166824
	4479446	4780448	5076452	5391270	5729761	6096340	6472263	6788355	7111794	7400701	7664132	7929601
	75302	83219	101841	103607	83258	149665	190103	125111	213511	159891	164658	98645

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	258845	262416	247631	248327	298304	289678	276233	294368
	-6624	3571	-14785	696	49977	8626	-13445	18135
	6184046	6308341	6390016	6491775	6691790	6829455	7046419	7224930
	135446	124295	81675	101759	200015	137665	216964	152013
	8188446	8450862	8698493	8946820	9245124	9534802	9811035	9840503
	12399	139121	165956	146568	98289	152013	2488383	2309872

過去30年ほどに消失した伝道者288万人。過去10年間のバプテスマ合計より多い数字です。
 すなわち全世界のエホバの証人の野外奉仕によってこの10年間払われた努力の実はすべて
 無駄に終わったと言える減少率です

この表から分かることは1981-2010年の29年間の伝道者が、およそ288万人も消失しているということです。もちろん数字上の事柄で、事情は分かりませんが、自然死亡率は微々たるものですから、伝道者ではなくなった人の人数が、288万人近くいるというのは、驚くべき数字で、これは2010年の伝道者の40%を占める割合で、この数字はこの29年間の累計ですが、統計に含める年数をさらに過去にさかのぼると、さらに増えてゆきます。何とこれはバプテスマを受けた5人の内2人が組織を去っていると考えられる事実をこの数字は物語っているのです。一体何が生じているのでしょうか。

しかも、すでに王国は樹立して、キリストは王の王として支配を開始したとされる1914年以来1世紀近い年月が経とうとしているにもかかわらず、1/3の神の民は唯一真の神の地上の組織からサタンによって連れ去れている言えるこの現状の真相を明らかにする情報はその組織自らからもたらされるのでしょうか。それともそれは主ご自身から、正真正銘の臨在が始まった時に明らかにされるのでしょうか。

さて、統計を見ると特に現象が目立つ年があります。もっとも激しいのが1999年で21万人以上減少しています。そしてさらに際だっているのが1996-1997年、2000-2001年、そして2005-2006年あたりです。これらの年に何が生じていたのか、あなたはお知りになりたいと思われるのでしょうか。

これまでずっと、エホバの証人が神の組織であり、その祝福を受けている唯一のグループであり、そしてそう言える一つの証拠は全地で拡大の一途を遂げている事実がそれを物語っていると言われてきました。

すなわち「エホバの祝福こそが人を富ます」のであり、人間がどんなに努力してもそれなくしては何事も成功しないということの故に、伝道者の増加は「エホバの祝福のしるし」とされてきました。

では、全体の40%の減少は何と言うべきなのでしょう。あえて言うのであればその反対ですから、エホバの呪いのしるしということになってしまうのでしょうか。それは、エホバの証人にとってあまりにも考えにくいことでしょう。ではそうではないとしたら他に何というべきなのでしょう。

「祝福を受けるための条件は何でしたか。記述はこうなっています。「もしあなたが、あなたの神エホバの声に必ず聴き従い、よく注意して、わたしが今日命じるそのすべてのおきてを守るならば、あなたの神エホバもまた、あなたを地にある他のすべての国民の上に必ず高めてくださるであろう。そして、あなたの神エホバの声に常に聴き従うゆえに、このすべての祝福があなたに臨み、あなたに及ぶことになる」。そうです、神からの祝福を享受するためのかぎは、神に対する従順でした。」

「今日のエホバの従順な僕たちについてはどうでしょうか。エホバの証人の組織が世界的に増大と拡大を続けているのは、神が祝福してくださっている結果です。

また、1995年の主の晩さんの式に1,300万余の人が出席したことから、さらに一層増加する可能性があることは明らかです。」-塔96 6/15 15p 14,16節

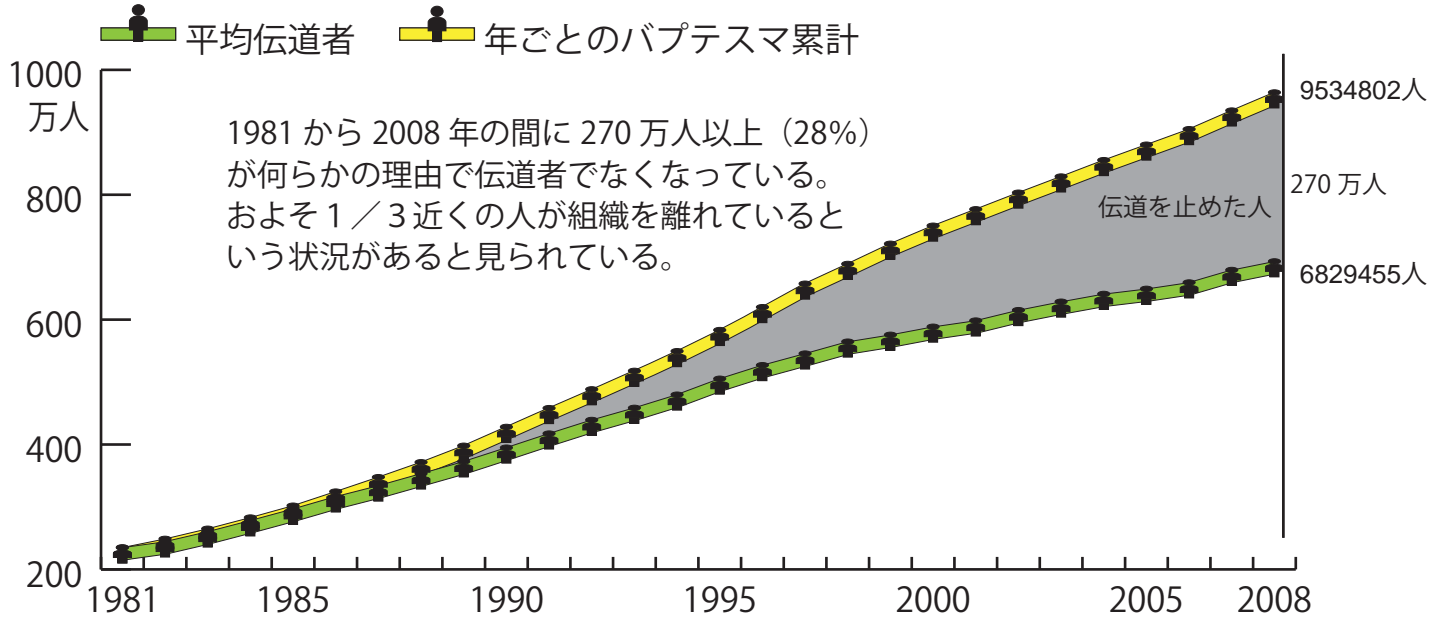
予想に反して、とりわけこの辺りから急速に「減少の一途たどっています」この「増大は神の祝福の結果」という記事が出された1996年の伝道者の減少数は約15万人でした。

どれほどハッパをかけて伝道者を野外に差し向けてみても、まさに「焼け石に水」状態でその努力は何も実っていません。

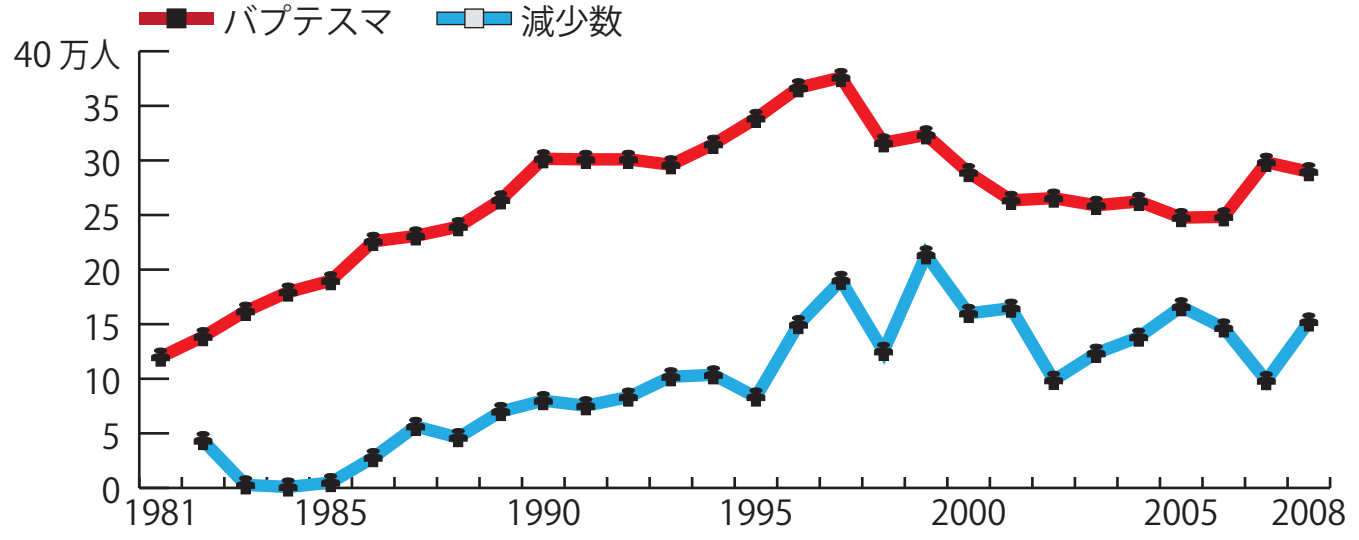
1981年から2010年までのバプテスマ数 9,840,503人

2010年の実際の 伝道者数 7,224,930人

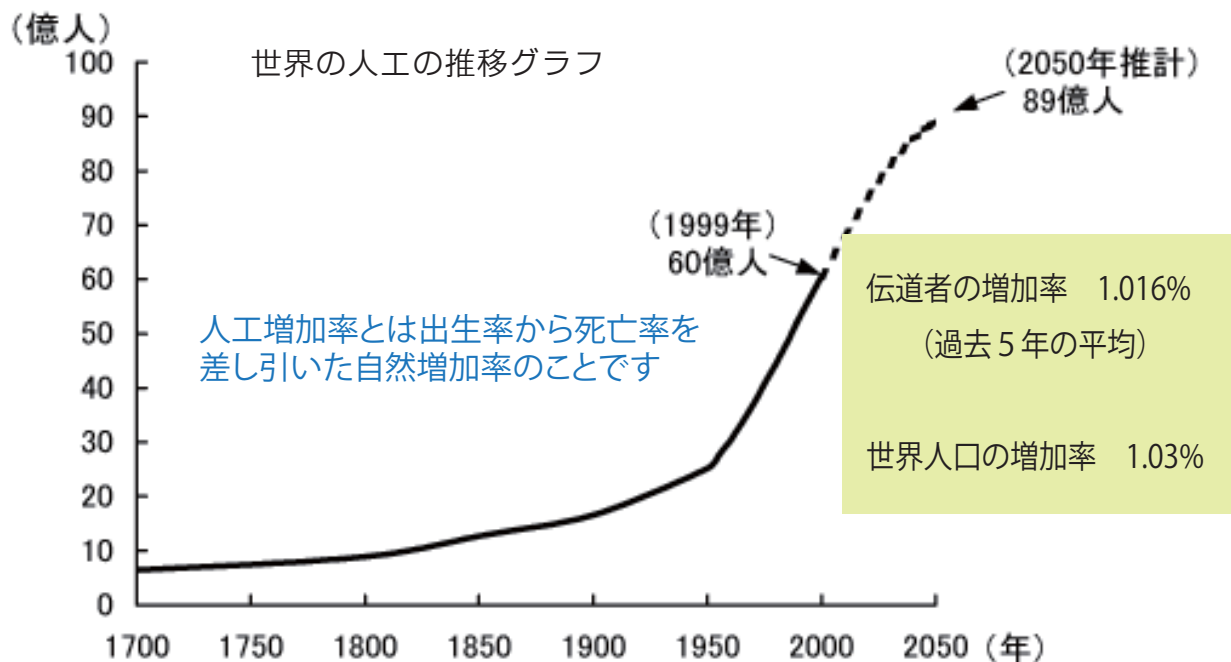
新名バプテスマ数と伝道者の増加率比較



「エホバの証人の年鑑」のデータに基づく



世界の人口増加率と伝道者の増加率比較



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集1999」より作成

1700年～1800年：コーリン・クラーク『人口増加と土地利用』（杉崎真一訳）

1800年～1900年：United Nations, The Determinants and Consequences of Population Trends, Vol. 1, 1973

1950年～2050年：United Nations, World Population Prospects: 1998

世界人口推移

年	人口(100万)
1995	5719
1996	5802
1997	5883
1998	5964
1999	6045
2000	6124
2001	6203
2002	6281
2003	6359
2004	6437
2005	6515
2006	6593
2007	6671
2008	6750
2009	6828
2010	6907
2015	7295
2020	7667
2025	8011
2030	8318

総務省統計局データ

世界人口の増加率の方が伝道者増加率よりはるかに上回っています。

一言で言えば「イタチごっこ」で、つまり決して追いつかないどころか、時間が経てば経つほど引き離されてゆく文字通りエンドレスのレースのようなものです。

2007-8年を例にとってみると、669万1790人が1年間働いて13万7665人の伝道者を産み出しました。この値を使って、世界人口のたったの1割の、6億7500万人の人数が伝道者になるまでに、何年くらいかかるかを計算すると、4千900年の長い歳月が必要になるという計算になります。

業が開始されてから100年以上経ちますが、2008年でようやく人口の0.1%です。(682万9455 / 67億5000万) この現状では、後100年経っても0.1%あるいはそれ以下でしょう。

(マタイ 24:14)「…王国のこの良いたよりは、あらゆる国民に対する証しのために、人の住む全地で宣べ伝えられるでしょう。それから終わりが来るのです。」

これは物理的に地球上のどの場所まで行くかという問題ではなく全地に住むあらゆる「人々」に達するという事です。「神に不公平はないからです。」

明らかなのは、「家から家」の現状のこの地道な業によって「あらゆる人が救われて真理の正確な知識に至る」という神のご意思がなされる可能性は、ほとんど「0」であり、しかも年月が経てば経つほど、天文学的に不可能になってゆくというのが現実です。

「それから、終わりが来る」のが、もしこの業の続行によることで成就するというのであれば、「終わり」は永遠に来ないと断言できるでしょう。単なる人間の業ではなく、預言された「しるし」の一つとして見られるからには、つまりマタイ 24:14 が成就するためには、現実問題として人工増加率の数倍もしくは数十倍の率で伝道者が産み出されるような事態になるか、さもなくば、全く別の手段、方法でなされなければ実現しないのではないのでしょうか。

(「マタイ 24:14」に記されている預言が、戸別訪問の伝道活動などによって成し遂げられる預言などではなく、この成就是、現在のエホバの証人の「世界的な業」とは微塵も関わりのない預言であるという聖書的根拠については「20 「良いたよりがまず宣べ伝えられねばならない」とはどういう意味ですか」をご覧ください。)

確かに「救われる人は少ない」と書かれていますが、「少ない」とは実際にどれくらいなのか分かりませんが、「だれも数えつくすことのできない大群衆」が毎月数え尽くされている現状では、とても預言が成就しているとは言い難く、また、12万人ほどのネニベの人々の命を惜しまれたエホバ神が、人口の99.9%の命を惜しまれることはないなどと言える根拠は見あたりません。